

「ニュートリノ-鉄反応における低エネルギー陽子生成過程の研究」

志村 観世

NINJA 実験では、ニュートリノ振動実験において困難とされている低エネルギー帯の反応断面積の精密測定を行うために、空間分解能、粒子識別能力に優れた原子核乾板を用いることで、低エネルギー領域における陽子の検出を可能とし、ニュートリノ-原子核の反応断面積の精密測定を目的としている。本研究ではコンピューターのディスプレイ上に飛跡データを表示し飛跡のつながり確認してそのデータをまとめた。また顕微鏡を使用して原子核乾板中の飛跡のデータの取得を行った。本研究では測定データの 内、陽子が二つ放出される事象に着目し解析を行った。